

公共施設マネジメントの取組
と
光が丘地区の現状など

公共施設のあり方の見直し

- 「施設の老朽化」や「人口減少・少子高齢化」「社会・環境の変化」など、公共施設を取り巻く環境は時代とともに大きく変化しています。

施設の老朽化

- ・昭和40年代～50年代の人口急増期に多くの公共施設を整備
- ・これらの施設の老朽化が進み、今後、改修や建替え（更新）に多額の費用が必要

人口減少・少子高齢化

- ・人口減少や少子高齢化が進行（2015年 2065年）
- ・日本の人口は、1億2,709万人 8,808万人
- ・高齢化率は、26.6% 38.4%

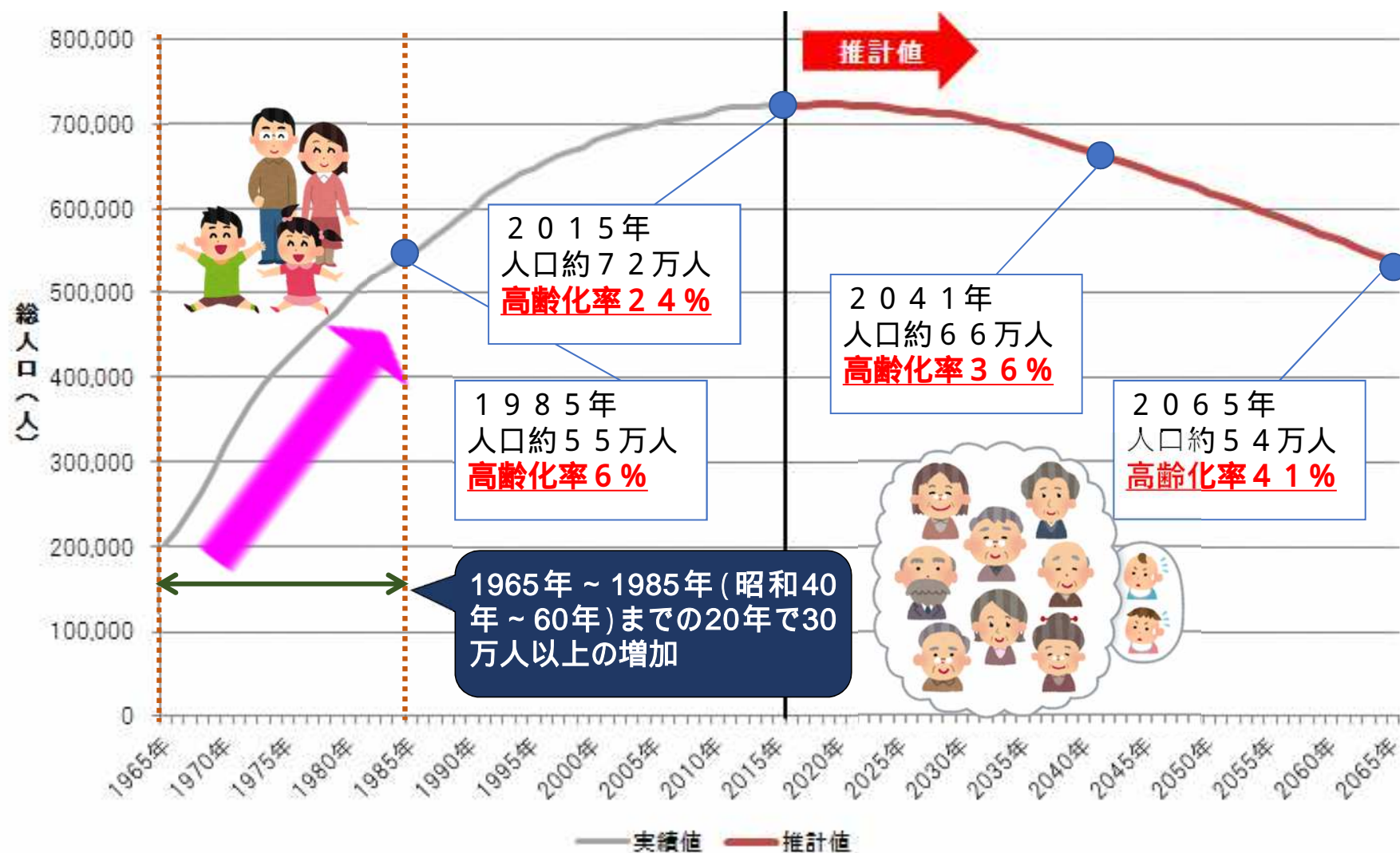
社会・環境の変化

- ・今後想定される大規模災害への備え
- ・個人の趣味や活動の多様化など、求められる役割の変化
- ・技術革新によるサービスのあり方の変化

公共施設を取り巻く環境は時代とともに大きく変化

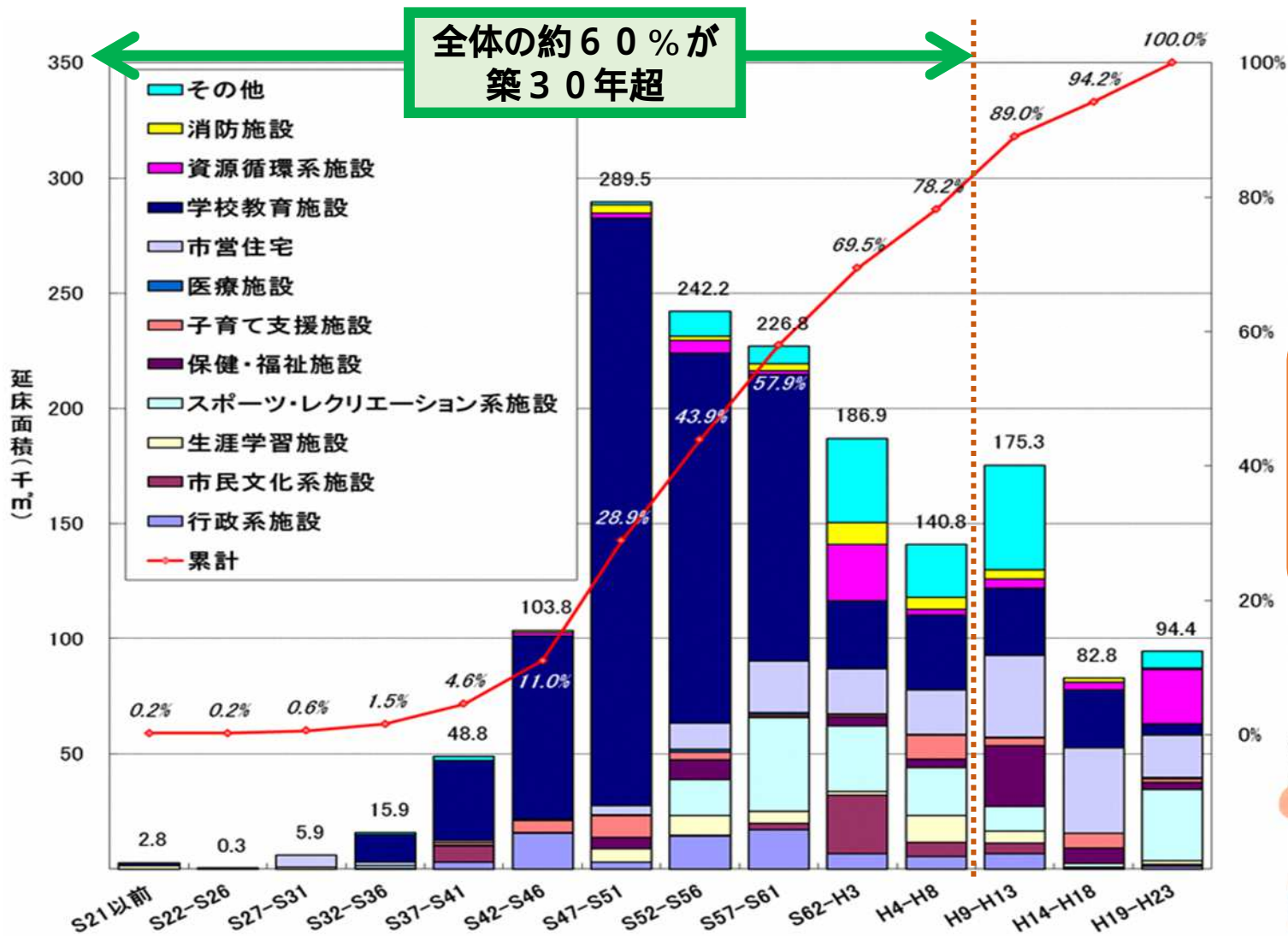
人口減少・少子高齢化

- 相模原市では、2015年時点で人口約72万人、高齢化率24%となりました。
- 今後も人口減少が進み、2065年には人口約54万人（2015年から約18万人減少）、高齢化率41%（2015年から17%増加）の予測です。



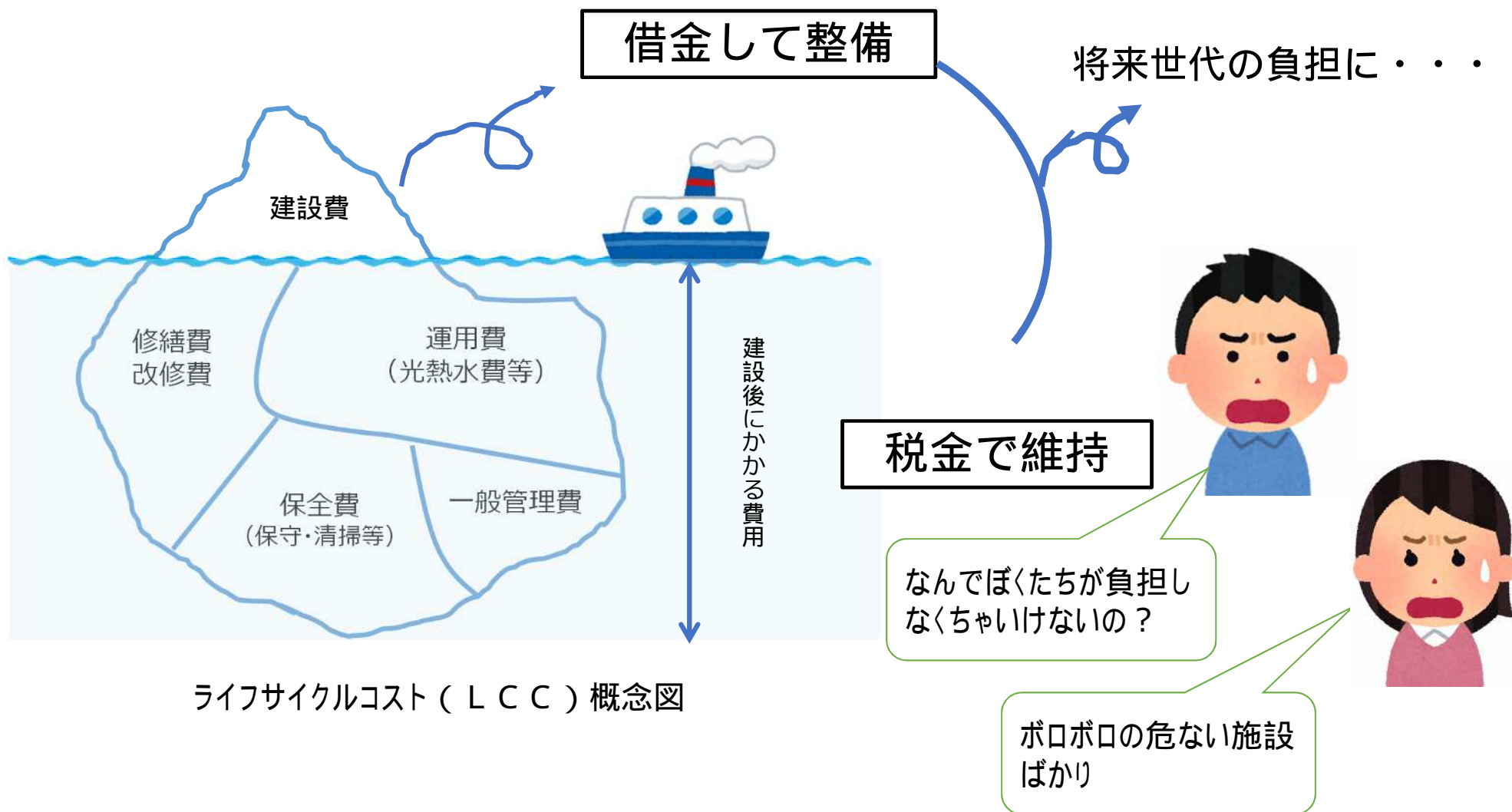
公共施設の老朽化と改修・更新費用の確保

- 相模原市の公共施設は、全体の約60%が築30年を超えており、老朽化が進行しています。
- 今後、多くの施設が一齐に改修や建替え（更新）の時期を迎え、多額の費用が必要となる見込みです。
- 人口減少や少子高齢化が進み、厳しい財政状況が見込まれる中、今あるすべての施設をこれまでと同様に維持していくことは困難な状況です。



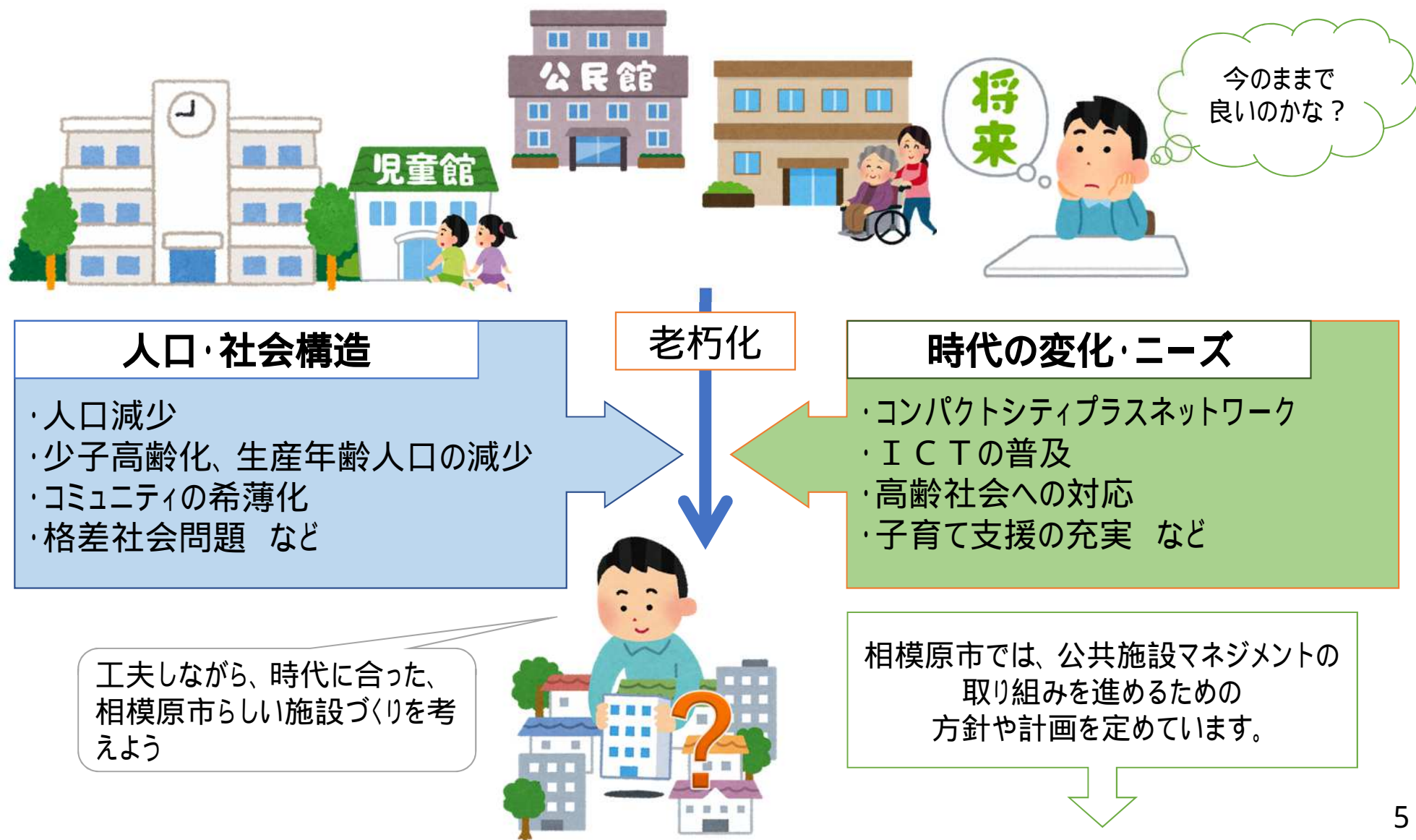
施設の整備・維持にかかる将来負担の増加

- 公共施設は建設して終わりではなく、その後の維持に多額の費用がかかります。そして、その費用の多くは税金で賄われています。

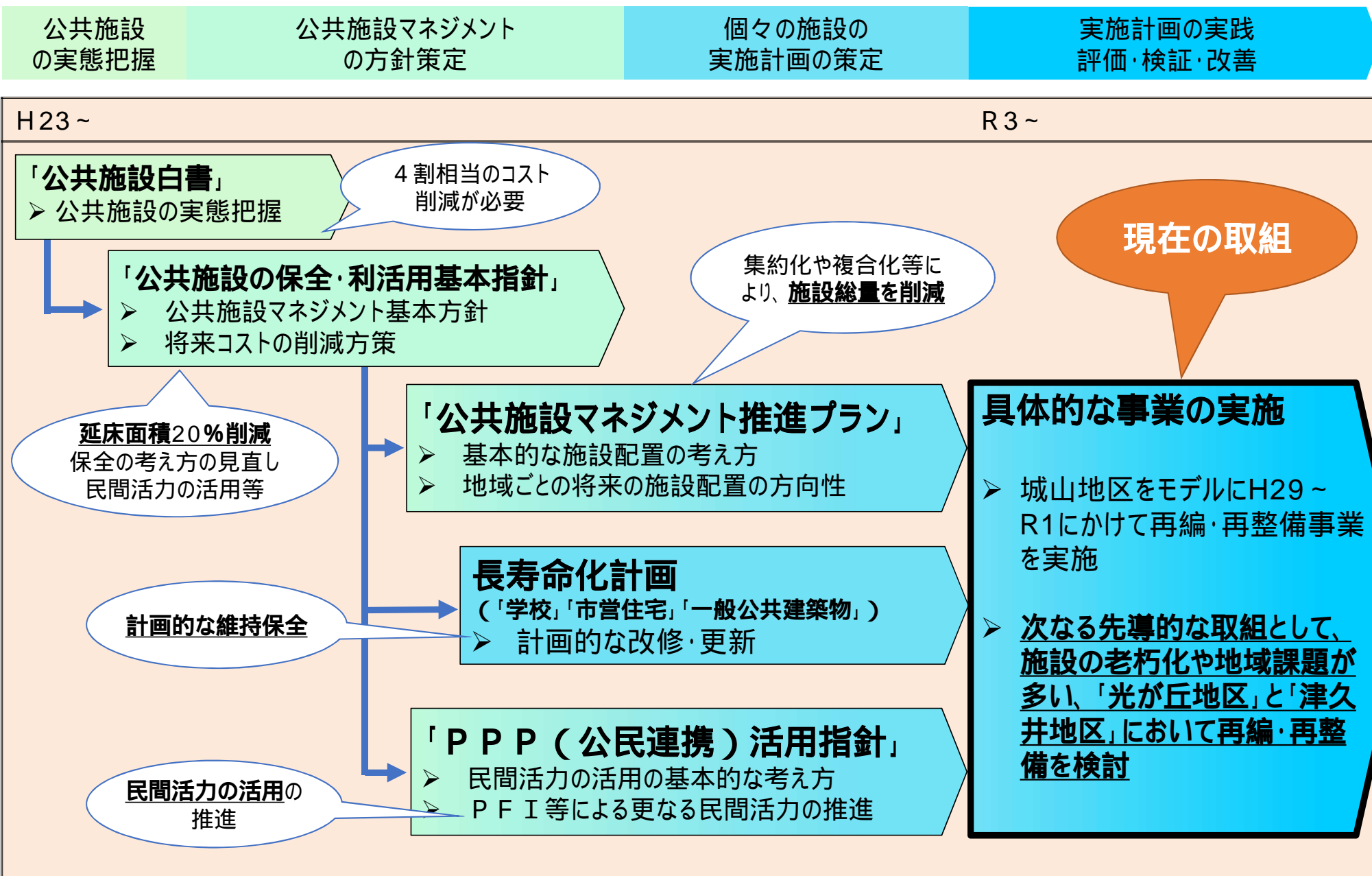


次世代に引き継ぐための公共施設のあり方

- 相模原市では、公共施設の老朽化や施設を取り巻く環境の変化を踏まえ、公共施設マネジメントの取り組みを進めるための方針や計画を作成し、相模原市らしい施設づくりを考えています。



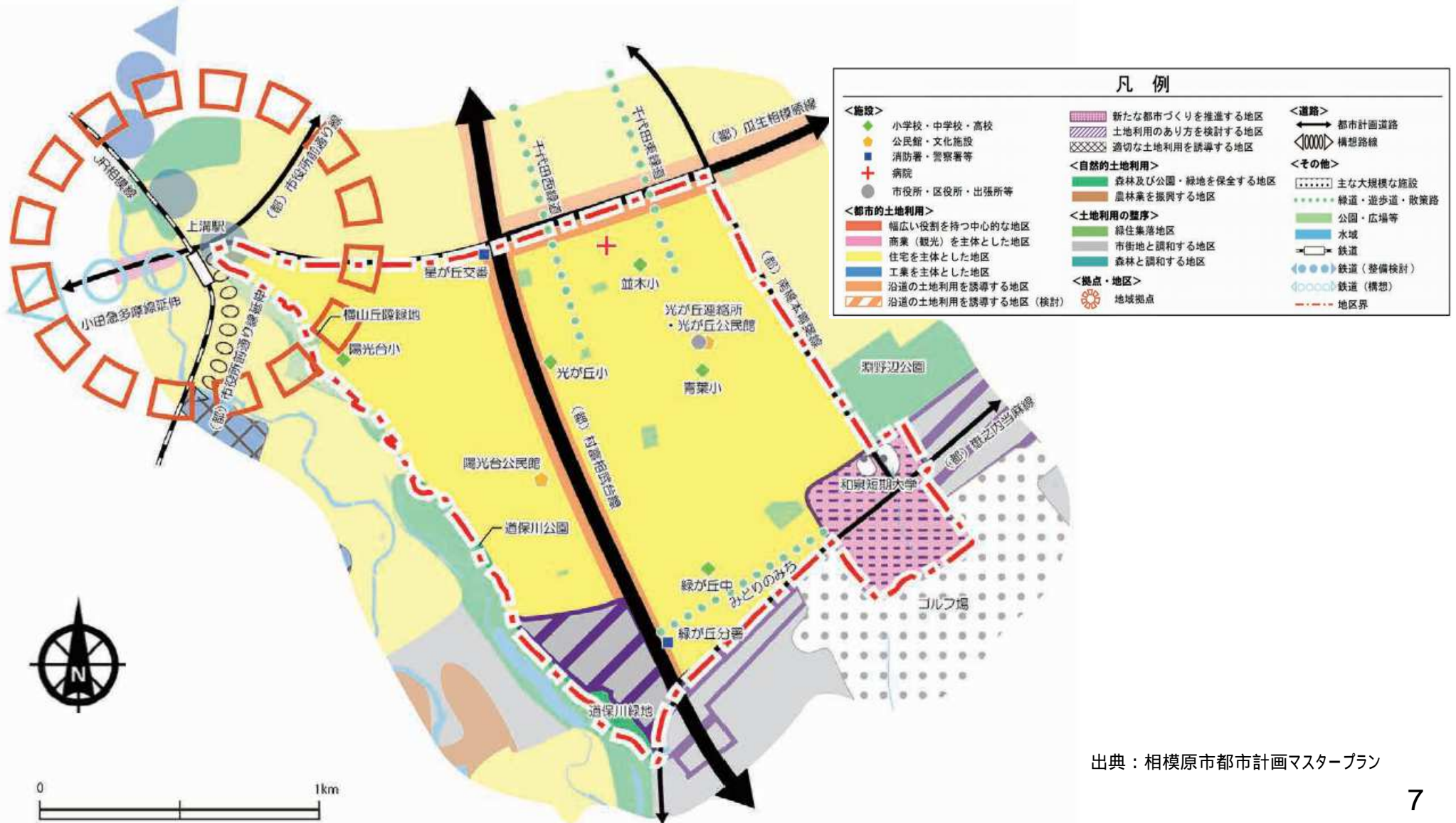
本市におけるこれまでの公共施設マネジメントの取組と今後の取組



光が丘地区の現状など

光が丘地区の地勢・特色

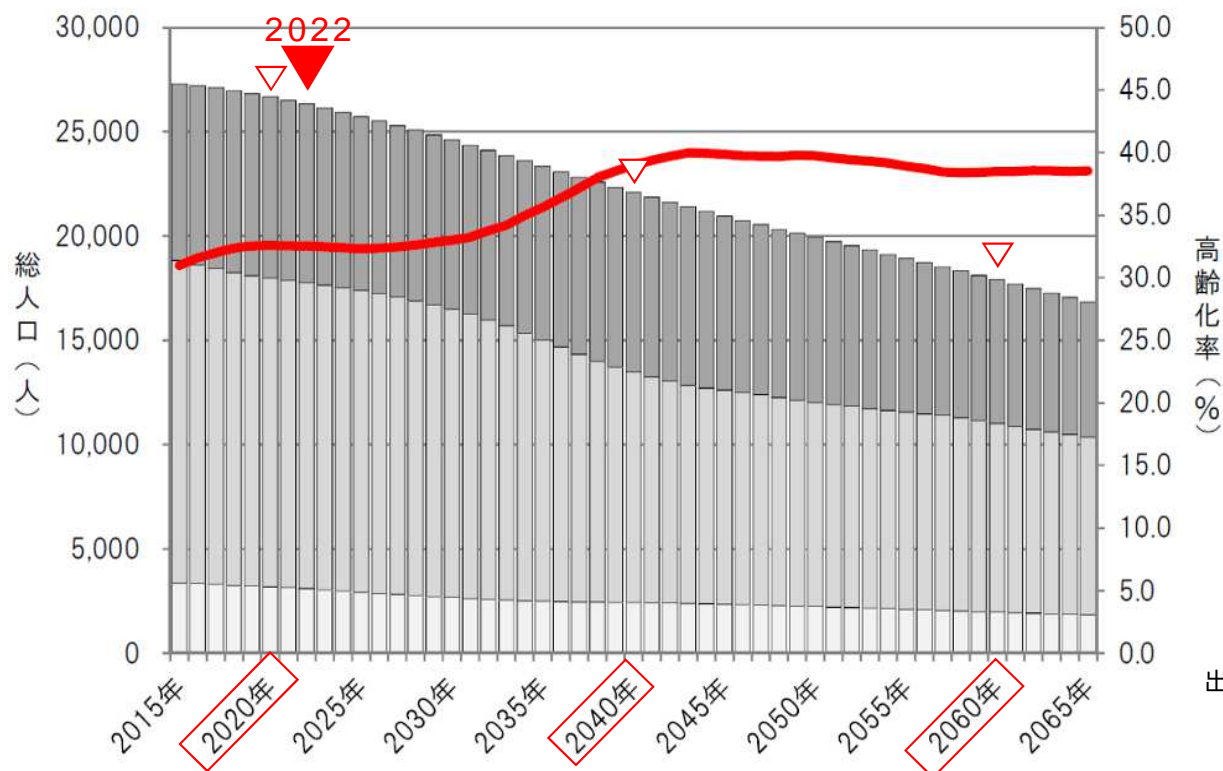
- 本地区は、中央区の中央に位置し、上溝駅等の鉄道駅に比較的近い立地です。
- 人口急増期に、住宅地が一斉に整備され、良好な住環境が形成されています。（黄色）
- 村富相武台線などの幹線道路沿道では、商業施設などが多く立地しています。（橙色）



出典：相模原市都市計画マスタープラン

光が丘地区の人口推計

➤ 人口推計では、今後一貫して人口が減少し、少子高齢化が進行する見込みです。



光が丘地区の公共施設の状況

- 小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において、「令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、光が丘小学校、陽光台小学校、並木小学校に再編する」という対応方針が定められたところです。（R3.8）
- 療育センター陽光園、陽光台保育園など、子どもが利用する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。

【光が丘地区の公共施設の施設配置の方向性】

地区内の公共施設の多くが老朽化していく中においては、施設の複合化や多機能化、集約化を図りながら地域の交流拠点を形成し、地域にとって必要な公共サービスの提供を目指す。

（公共施設マネジメント推進プランより抜粋）

光が丘地区の公共施設の状況マップ

療育センター陽光園 築46年
 建設年度 S49 - H5
 延床面積 3,290㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い。



陽光台保育園 築46年
 建設年度 S49
 延床面積 718㎡
 現地建替えは、敷地規模や周辺状況から、課題が多い



陽光台小学校 築45年
 建設年度 S50-S51
 延床面積 6,409㎡
 学習環境のあり方検討対象



光が丘小学校 築52年
 建設年度 S44-H2
 延床面積 7,876㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：光が丘児童クラブ

光が丘児童館 築49年
 建設年度 S46
 延床面積 196㎡



青葉小学校 築43年
 建設年度 S52-S53
 延床面積 5,718㎡
 学習環境のあり方検討対象



併設：青葉小学校放課後子ども教室・青葉児童クラブ

並木小学校 築46年
 建設年度 S49-S50
 延床面積 7,002㎡
 学習環境のあり方検討対象



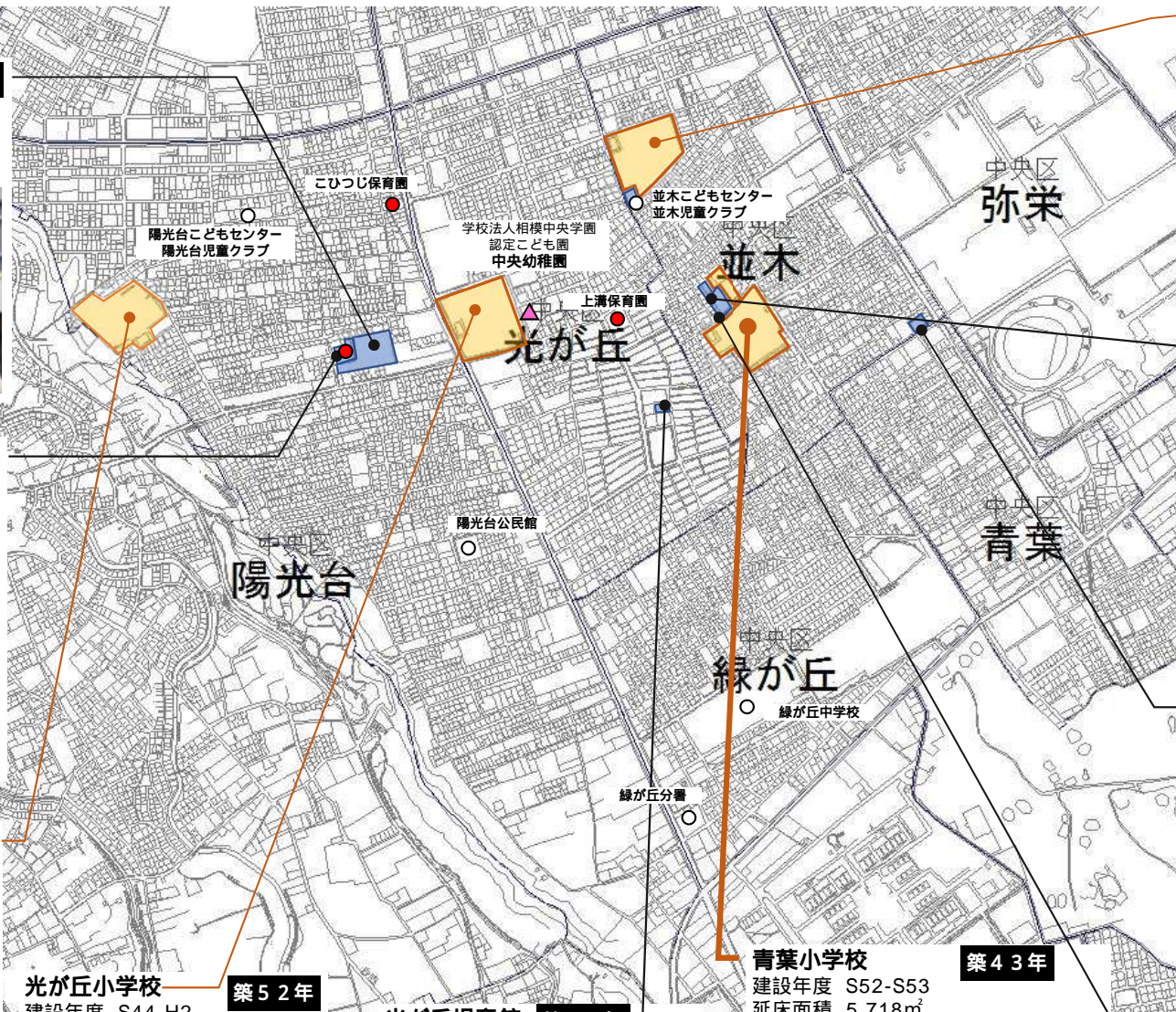
光が丘公民館 築36年
 建設年度 S59
 延床面積 1,004㎡
 長寿命化改修検討対象



青葉児童館 築46年
 建設年度 S50
 延床面積 253㎡
 行財政構造改革プランの見直し対象



光が丘連絡所 築23年
 建設年度 H10
 延床面積 60㎡
 行財政構造改革プランの見直し対象



建設年度は、棟ごとに表しています。
 (古い棟 - 新しい棟)
 市営住宅、消防団詰所は除いています。

● 認可保育園、認定こども園

取組の方向性

- 青葉小学校の閉校後の跡地（既存ストック）は、「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討します。
- 既存ストックの活用を想定した公共施設の再編・再整備を地域とともに検討します。

一体的な活用

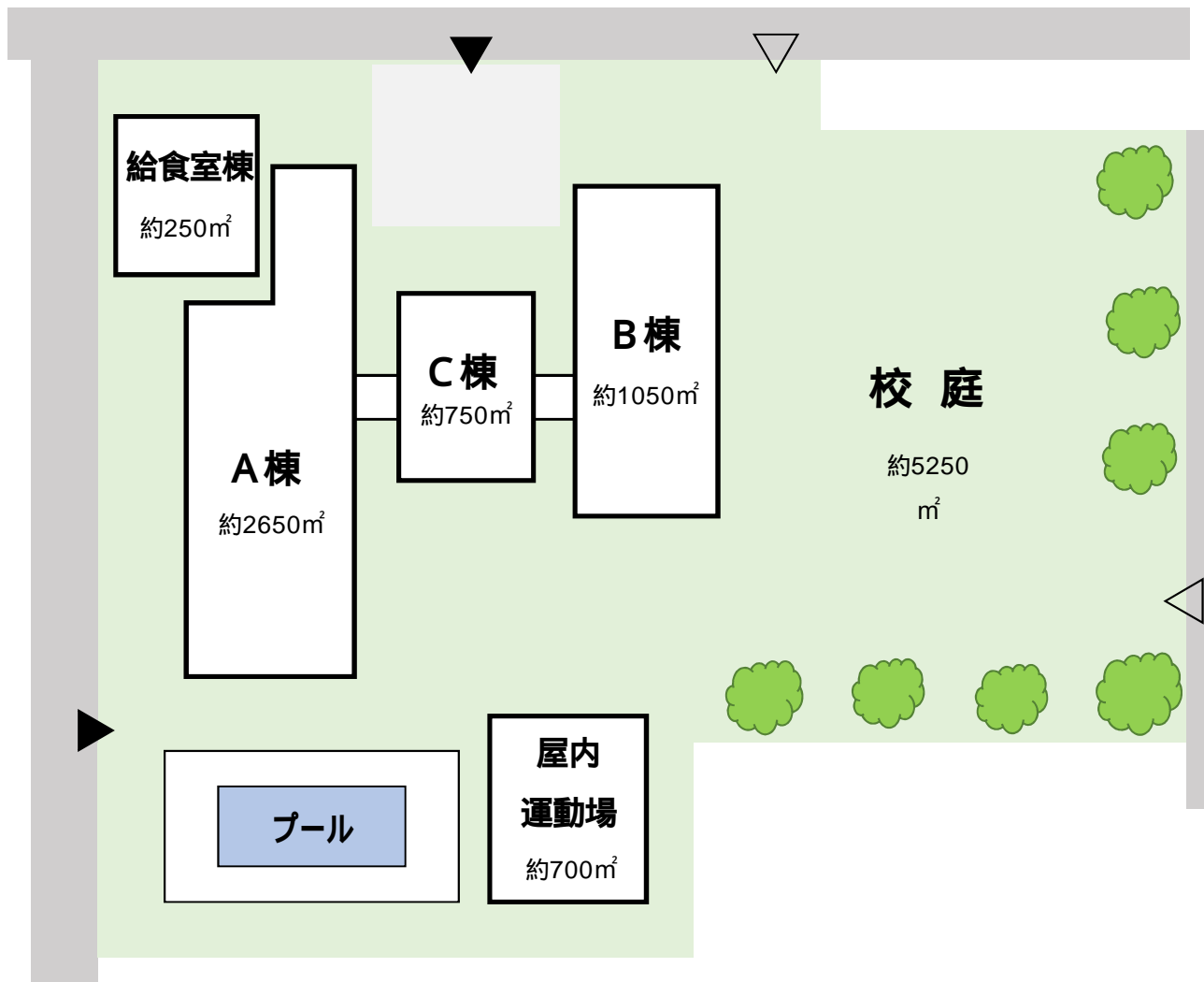
【市の方針】

- 老朽化が顕著である『療育センター陽光園』『陽光台保育園』で利活用する。
- 再編後に生まれる『未利用資産』（現療育センター陽光園の土地など）は、市の財政状況も踏まえた売却、貸付などによる財源確保を検討する。

【地域とともに考えていくこと】

- 地域課題や周辺公共施設の状況を踏まえ、『地域にとって必要なサービス・機能』での利活用を検討する。

既存ストック（小学校）の内容



既存ストックの内容

○ 内部空間

- ・教室棟（A、B、C）
- ・給食室棟
- ・屋内運動場
- ・その他倉庫など

○ 外部空間

- ・駐車場
- ・校庭
- ・プール
- ・樹木 など

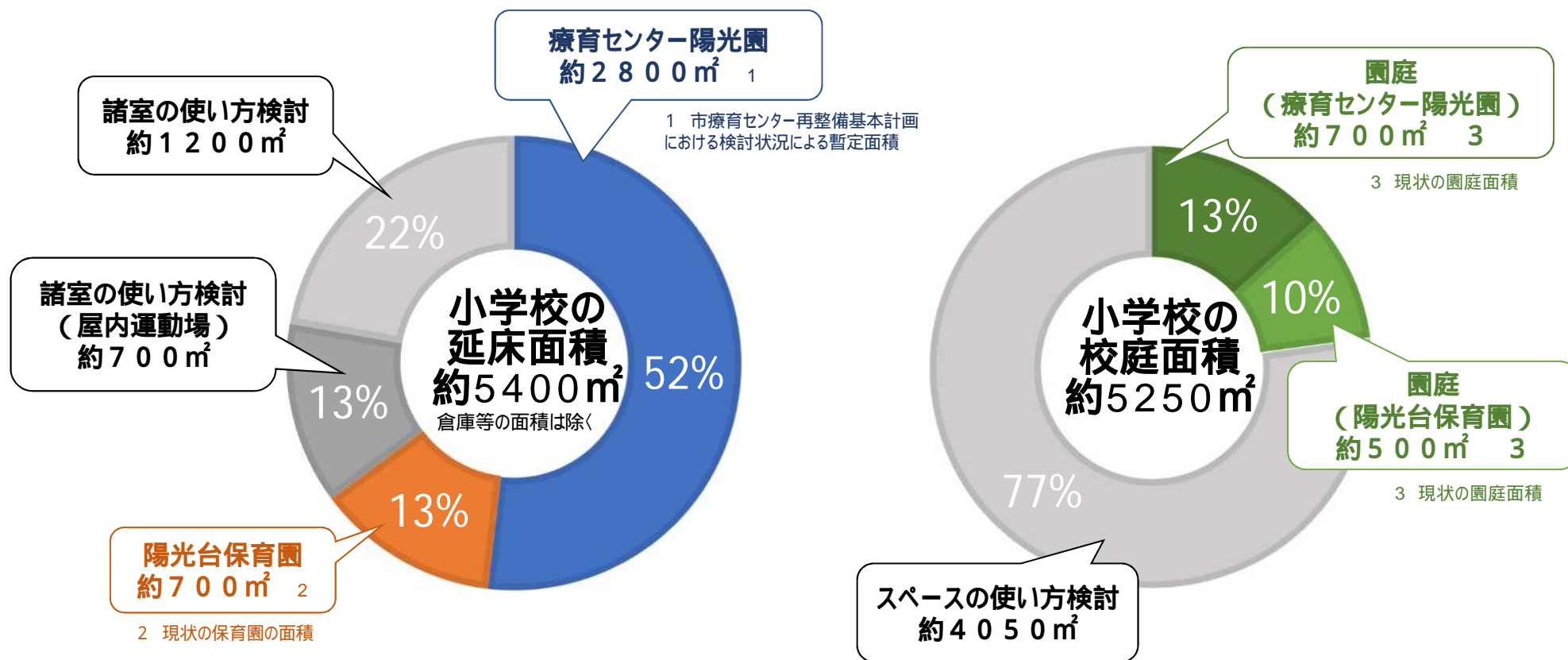
検討にあたっては……



『内部空間』と『外部空間』の両方からの配置検討が必要（ハード）
『施設』や『敷地』の管理手法の検討が必要（ソフト）

既存ストックを活用した跡地活用の検討

- 療育センター陽光園、陽光台保育園で、現在の小学校の延床面積のうち、約65%を活用する見込みです。
- それ以外の約35%の諸室の使い方（屋内運動場を含む）や、校庭等の活用方策について、市民参画等を踏まえて検討していきたいと考えています。



学校用地を活用した場合の延床面積や校庭面積の割合

(1.2.3 今後の検討により変更がある場合があります。)

次回（第2回）ワークショップのお知らせ

開催日：令和3年12月19日（日）

時間：午後2時00分から午後4時30分まで

集合場所：光が丘公民館 大会議室

第2回ワークショップテーマ

跡地活用のイメージ

施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことなどを考えよう！

現地（学校）視察を予定していますので、歩きやすい服装でお越しください。
開催1週間前までに、開催通知を送付しますので、通知内容をご確認下さい。